

国際ロータリー第2560地区  
ガバナーテーマ

「自らのロータリーストーリーを  
作りましょう」

高田ロータリー  
今年のスローガン

「善意を深め、  
奉仕の力を昂めよう」



インスピレーションになるう

2018～2019年度

国際ロータリー会長 バリー・ラシン  
2560地区ガバナー 川瀬 康裕  
高田ロータリー会長 牧野 章一  
幹事 佐藤 教彦

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号  
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534  
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp  
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員  
堀井 靖功 岩崎 幹男 宮川 大樹

## 第35回例会 ■ 4月19日(金)

No.35

### 会長挨拶 ● 牧野 章一



皆さまこんにちは。

今週の日曜日、14日に高田東ロータリークラブ主管で第7分区第25回IM及び高田東ロータリークラブ創立50周年記念の集いがデュオ・セレッソで行われました。当クラブからはアクターを含め40名強の皆さまが参加されました。

13時にIMが開始され、14時15分記念式典そして、祝賀会と続き、終了は19時過ぎという6時間にわたるプログラムでありました。

当高田ロータリークラブへ「スポンサークラブへの感謝状」が贈呈されたことを皆さまに報告いたします。

高田東ロータリークラブは、2017-18年度国際ロータリー会長賞を受賞しています。奉仕活動はその性質から地味で見えづらいものです。絞込みと計画、言葉を変えると時間を味方にする戦略性は学ぶところ多であります。

さて、「会員増強」のお願いです。

現在会員数は64名です。期首は65名でした。年度目標は純増3名です。会員が増えればクラブに元気が出ます。会員が増えるごとに例えて言

うならば辞書のページが増えていきます。「これは彼に、彼女に聞けば分かる」と…。そしてそれは、五大奉仕に必ず反映されていきます。

「変化を実行に移す年度にする」「楽しいロータリーでつながろう」が目前にあります。辞書のページを増やす時です。会員候補者をご紹介下さい。

本日の卓話は、高田西城病院 認知症疾患医療センター センター長 森橋恵子様よりテーマ「にっこり手帳を活用した『その人らしい晩年』」を伺います。ご清聴ください。

### お知らせ



4月19日午後7時8分に大島精次パストガバナーがご逝去されました。(享年83歳)ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

### 出席報告

出席率 94.55%

### メイクアップ

橋詰敏一君 (4/20 米山記念奨学生オリエンテーション)

### 委員会報告

出席ニコニコBOX委員会

三井慶昭君——今月15～18日の間、ネパールの寺廻りをさせて頂きました。

宮川大樹君——おかげ様で、4月28日に挙式をあげる事になりました。日を改めて各地区で披露宴を行います。ロータリーの皆様には本日棚入れさせて頂きましたが、6月23日の披露宴でご案内致しました。今後とも妻ともよろしくお祈りいたします。

地区研修・協議会実行委員会(佐藤委員長)——5/11地区研修・協議会のお手伝いご協力のお

願い  
会員増強委員会——新会員推薦のお願い

## 会員インフォメーション

ゴルフ同好会——7/13 ゴルフコンペのご案内

## 幹事報告

配布物：週報No.33・34

回覧物：高田駐屯地広報「妙高」号外・骨髄バンク命のアサガオにいがた10周年記念事業チラシ・若き演奏家の世界チラシ・小林幹男さん（元会員）挨拶状

## 5月例会プログラム

回	日	講演者：演題	会場
-	5月3日	法定祝祭日 休会日	-
-	5月10日	祝日振替休日 休会日	-
37	5月17日	クラブ協議会 地区研修・協議会報告	デュオ・セレッソ
38	5月24日	卓話者 高田RAC会長 草野 健斗君 演題 未定	デュオ・セレッソ
39	5月31日	卓話者 上越教育大学 副学長・教授 直原 幹様 演題 未定	デュオ・セレッソ

## 卓話

### にっこり手帳を活用した「その人らしい晩年」



高田西城病院 認知症疾患医療センター長 森橋 恵子様

平成24年に当センターを中心として、医師会（上越・糸魚川）、歯科医師会、薬剤師会、上越市、妙高市、糸魚川市、地域振興局（上越・糸魚川）、医療機関<sup>1)</sup>、ケアマネ協議会<sup>2)</sup>、地域包括支援センター<sup>3)</sup>、認知症の人と家族の会、権利擁護センターなどの協力で「にっこり手帳」を作成した。認知症の人（本人）やご家族の主体的な活用と連携、ならびに重症化予防の観点から作成し、平成25年から活用を開始した。

上越地域には本手帳のほかに、「上越認知症地域連携パス」「地域連携連絡票」「ものわすれ連絡箋」の3つの連携ツールがある。これらは専門職間で情報共有する連携ツールとなっているが、「にっこり手帳」は本人やご家族が所持し、主体的に医療・介護を含む地域の支援者に想い・希望を示し、ケアに活かしていくためのツールである。

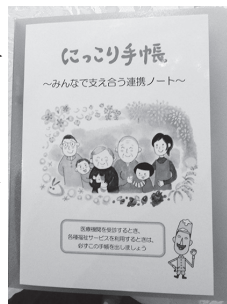
今回の講演では、利用事例の中から“立場的に想いを聞き出しにくい嫁が本手帳を利用することで本人のエンディングの想い・希望を聞きとり、遠方に住む息子・娘や支援者に本手帳を通じて本人の意思を伝え、在宅で看取ることができた事例”を紹介した。

運用開始から現在の本手帳利用累計は約750人。運用1年後のアンケートでは、手帳活用が十分でないことが明らかになり、地域への啓発活動強化ならびに本人や家族への心理教育の強化を図ってきた。また平成28年には、諏訪サロン登

録26名中16人にエンディングへの想い・情報共有についての聞き取り調査では、「人生のエンディングへの想いを伝えたい」「地域で支え合う支援者と情報共有がしたい」という想いがあっても、実は家族ですらその想いは話し合われていないことがわかった。課題として、①本人の想い・希望は家族の考えとは異なる②手帳をしまい込んだままで内容を確認することができない③認知症が重症化すると、本人の想い・希望が支援に反映しづらいことが挙げられた。

現在、上越市の高齢化率は31.7%<sup>4)</sup>であり、今後も高齢化が進展すると推計されている。独居や高齢者のみ世帯、人との関わりが希薄で生活実態がわからない場合、本手帳に記されていた想い・生活史・人との関係性など様々な情報から本人の意思を推定し、支援者みんなでケアをすすめている事例がある。このように、本人の意思を尊重した晩年を過ごすためには、早い段階から希望や人生のエンディングへの想いを家族や支援者に示し、その意向・希望をもとにして（にっこり手帳を判断材料に）本人・家族・医療・介護など支援者で繰り返し話し合うことが重要でしょう。

<sup>1)</sup> 三交病院、川室記念病院、高田西城病院、<sup>2)</sup> 上越、妙高、糸魚川、<sup>3)</sup> 上越市、妙高市、糸魚川市、<sup>4)</sup> 平成31年2月末現在



## 第7分区IM・高田東RC50周年盛大に挙

### 行 スポンサークラブ=高田RC=へ感謝状贈呈

4月14日デュオ・セレッソを会場に、第7分区の Intercity Meeting と高田東ロータリークラブ創立50周年が挙

行され、当クラブからも牧野会長他32名が参加しました。50年を振り返るとともに、姉妹クラブである台湾板橋東区等からの大勢の参加もあり、盛大かつ楽しい記念式典でした。祝賀会の席上、スポンサークラブである当高田ロータリークラブへ感

謝状が贈られ=写真=、牧野会長は祝意とともに7月にはじまる大谷ガバナー年度は、第7分区挙げて地区運営ができるよう協力を呼びかけました。

